



— くらべてみよう —

あしの数



ちじょうへん
地上編

4本あしの仲間



2本あしにみえるけれど



陸上に暮らしている脊椎（背骨のこと）動物の足の数は、手足を含めると全て4本になります。これは大昔の進化の過程で海の中で暮らしていた生き物が、生活圏を地上に移す際、魚の胸鰭2本が前足に、腹鰭2本が後ろ足になったからであると考えられています。

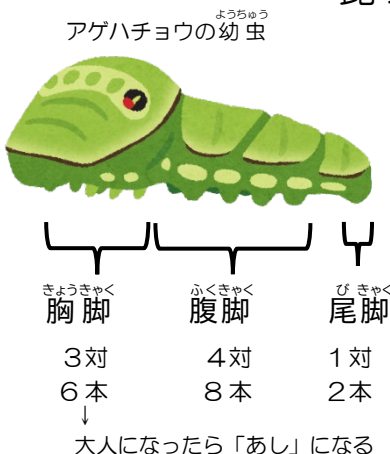
鳥やコウモリといった翼をもつ生き物の足の数は2本のように見えますが、これは前足が翼に進化しただけで、4本足の仲間にご該当します。

6本あしの仲間



昆虫の足は6本です。体は3つの部分（頭部・胸部・腹部）から形成されていて、足は全て胸部から生えています。胸部はさらに3つの部分（前胸・中胸・後胸）に分けられ、それぞれから足が1対ずつ生えています。昆虫の背中にある翅は背部の外骨格の形状が変化したもので、鳥やコウモリのような前足の進化によるものではありません。

昆虫だけど、6本足ではない時もある？



チョウやハチの幼虫は、たくさん足があるように見えます。お腹の足は、腹脚・尾脚と呼ばれ、足ではなく、腹部の構造が変化したものという説が有力ですが、詳しくはまだわかっていません。腹脚・尾脚の数は種によって異なりますが、アゲハチョウの幼虫には腹脚が4対、尾脚が1対、基本の足である胸脚の3対と合わせて8対、計16本の足があるように見えます。腹脚・尾脚は、木の上を移動したり、枝につかまって葉を食べる時に使われます。

次ページでは、もーっとたくさんの足を持つ仲間を紹介



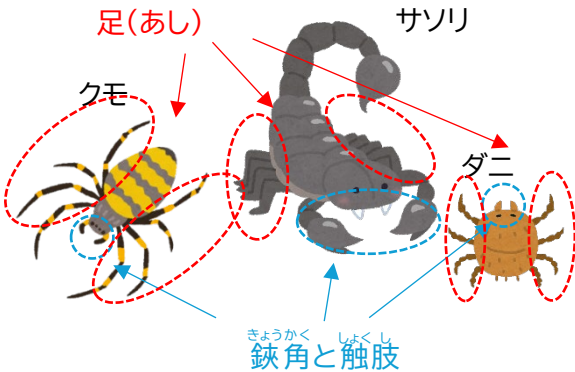
— くらべてみよう —

あしの数



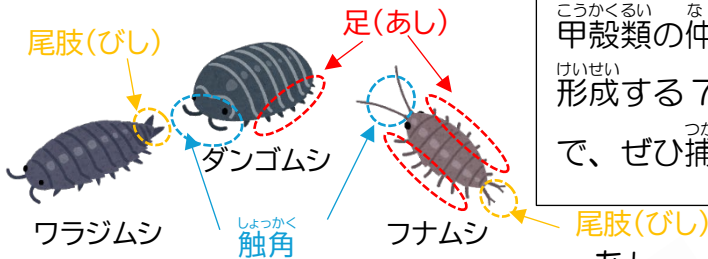
ちじょうへん
地上編

8本あしの仲間



クモの仲間の足は4対（8本）です。口付近には鋏角、触肢と呼ばれる付属肢がありますが、歩行には使われません。鋏角は口に物を運ぶ役割をもちますが、クモのように獲物に毒を注入したり、ダニのように獲物から血を吸う器官に発達した生き物もいます。触肢は獲物の味を感じたり、食べる時の補助器官として使われますが、中にはサソリのように大きいハサミに発達して、獲物を捕まえるために使う生き物もいます。

14本あしの仲間



ダンゴムシやワラジムシの仲間は、実はエビやカニと同じく、甲殻類の仲間です。『陸生甲殻類』と呼ばれています。足は胸部を形成する7節から1対ずつ生えています。身近な生き物なので、ぜひ捕まえて、観察してみてください。

とってもたくさんの足を持つ仲間（ムカデ・ヤスデ）

ほん
42本!



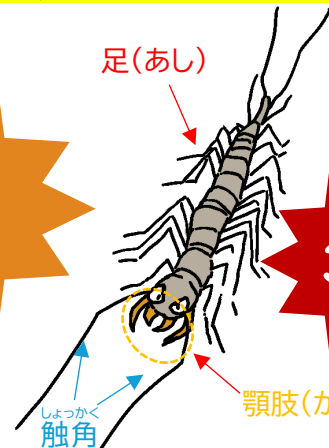
トビズムカデ
(ムカデ綱オオムカデ目)

さいだい
最大
ほん
226本!



ヤエヤママルヤスデ
(ヤスデ綱マルヤスデ目)

ほん
30本!



ゲジ (ムカデ綱ゲジ目)

アクティブ・レンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いた兵庫県南部・瀬戸内海側にある神戸自然保護官事務所の中村（なかむら）です。自然の中で遊べる出前授業も行っています。

↓↓興味のある方は、お気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL：078-331-1146 FAX：078-331-1148

竹野自然保護官事務所 TEL：0796-47-0236 FAX：0796-47-0249

